

## 審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 薬学部 薬学科

1. 卒業研究について、各配当年次における教育内容や指導体制、評価方法について明確に  
すること。(改善意見)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1. 卒業研究について、各配当年次における教育内容や指導体制、評価方法について明確にすること。

(対応)

卒業研究について、各配当年次における教育内容、指導体制及び評価方法について明確に示した。

(説明)

卒業研究の運営組織として「卒業研究委員会」を設置する。委員会では学生の配属、卒業研究ガイダンスの実施、卒業研究発表会の開催、卒業研究論文集の編集・発刊、成績評価に関する事項等を取り扱う。

3年次後期に卒業研究配属ガイダンスを行い、19の卒業研究グループに学生を配属する。配属学生数は、概ね卒業研究担当教員1名に対して3名から4名とし、グループに配属された学生の指導はグループ内の教員による集団指導とする。

4年次後期から卒業研究を開始する。直前ガイダンスを実施し、卒業研究の意義・目的、研究に求められる倫理・遵法性、実験研究における安全教育などを行い、研究倫理に関しては、理解度を確認するために小テストを実施する。4年次では、卒業研究指導教員の下で卒業研究の遂行に必要な文献講読、実験研究に必要な器具・装置の操作法を修得する。4年次終了時には、卒業研究の学修内容をレポートとしてまとめ、「卒業研究委員会」に提出する。

5年次では、実務実習を行わない期間はすべて卒業研究を実施する。卒業研究期間中は、指導教員とのディスカッションやセミナー形式での経過報告、関連論文の発表会を行い、問題解決能力、情報処理能力及びプレゼンテーション能力を醸成する。5年次終了時には、卒業研究担当教員と面談を行い、卒業研究の取り組み状況等による形成的評価、研究活動の改善点の抽出を行い、6年次での研究活動の進展を図る。

6年次では、5年次終了時に抽出された問題点を修正し、研究活動を継続する。卒業研究終了時には、研究成果のまとめとして卒業研究発表会（ポスター形式）を行い、ここでの質疑で得られた成果などを反映させ、卒業研究論文作成を行う。卒業研究グループ内の全教員が学生と面談して卒業研究の取り組み、研究発表会、卒業研究論文について総括的評価を行うことにより、問題解決能力について判定する。この判定結果を含めた最終の成績は、卒業研究指導教員から提出された評価に基づき、「卒業研究委員会」が確定する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (30～31ページ)

新	旧
6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (1) 教育方法 ③ 配当年次  (省略)  4年次後期から6年次前期にかけて配置している「卒業研究」では、修得した基礎及び専門知識を活用し、薬学分野に関する研究課題に対し学生自らが主体的に取り組むこととする。「卒業	6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (1) 教育方法 ③ 配当年次  (省略)  4年次後期から6年次前期にかけて配置している「卒業研究」では、修得した基礎及び専門知識を活用し、薬学分野に関する研究課題に対し学生自らが主体的に取り組むこととする。

研究」の指導体制については、運営組織として「卒業研究委員会」を設置する。委員会では学生の配属、卒業研究ガイダンスの実施、卒業研究発表会の開催、卒業研究論文集の編集・発刊、成績評価に関する事項等を取り扱う。3年次後期に卒業研究配属ガイダンスを行い、19の卒業研究グループに学生を配属する。配属学生数は、概ね卒業研究担当教員1名に対して3名から4名とし、グループに配属された学生の指導はグループ内の教員による集団指導とする。4年次後期から卒業研究を開始する。直前ガイダンスを実施し、卒業研究の意義・目的、研究に求められる倫理・遵法性、実験研究における安全教育などを行い、研究倫理に関しては、理解度を確認するために小テストを実施する。4年次では、卒業研究指導教員の下で卒業研究の遂行に必要な文献講読、実験研究に必要な器具・装置の操作法を修得する。4年次終了時には、卒業研究の学修内容をレポートとしてまとめ、「卒業研究委員会」に提出する。5年次では、実務実習を行わない期間はすべて卒業研究を実施する。卒業研究期間中は、指導教員とのディスカッションやセミナー形式での経過報告、関連論文の発表会を行い、問題解決能力、情報処理能力及びプレゼンテーション能力を醸成する。5年次終了時には、卒業研究担当教員と面談を行い、卒業研究の取り組み状況等による形成的評価、研究活動の改善点の抽出を行い、6年次での研究活動の進展を図る。6年次では、5年次終了時に抽出された問題点を修正し、研究活動を継続する。卒業研究終了時には、研究成果のまとめとして卒業研究発表会（ポスター形式）を行い、ここでの質疑で得られた成果などを反映させ、卒業研究論文作成を行う。卒業研究グループ内の全教員が学生と面談して卒業研究の取り組み、研究発表会、卒業研究論文について総括的評価を行うことにより、問題解決能力について判定する。この判定結果を含めた最終の成績は、卒業研究指導教員から提出された評価に基づき、「卒業研究委員会」が確定する。

(省略)

(追加)